

LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリナー文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。
この新連載では、氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とポートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text: Eiichi Ito

#02 フレンチ・リビエラ的美食

アラン・デュカスの世界

イタリアのリビエラから西へ続く地中海の海岸線をコート・ダジュール或いはフレンチ・リビエラと呼ぶ。この紺碧海岸地域は、美食と銘醸ワインの宝庫で、長年に亘り僕の舌を唸らせ、胃袋に満足を与え続けてくれている。そして現代フランス料理界に君臨するアラン・デュカスの出発点となった地でもある。

モンテカルロのロテル・ド・パリは、お隣のエルミタージュと並んでモナコ公国の最高級ホテルとして世界にその名を馳せている。ホテル内メインダイニングの「ルイ・キャーンズ(ルイ15世)」のシェフにアラン・デュカスが就任し、イタル・プロヴァンス料理という新しいカテゴリーの料理を生み出してからもう20数年が経つだろうか。

アランがルイ・キャーンズのシェフに就任して間もなく、その料理の素晴らしさに感激したのが、つい先日のように思い出される。特筆すべきが野菜料理だった。彼はこの地中海の輝ける大地をこよなく愛していて、産地の人々と対話しながら自分のものとして活用しているのが凄い。常に地中海世界の食材の探求を続けているというわけだ。彼の著書『シェフ美食の大地に行く』には、「地中海の珠玉の街々、マントン、モ

ナコ、ニース、バンドル、アンティープ、カシスを思うと、太陽、塩、柑橘類、野菜、葡萄の香りを含んだイメージが身体中を駆け巡る……」とある。

ルイ・キャーンズでは、20年以上も、「プロヴァンスの庭から」という、地中海の野菜を凝縮したメニューが続いている。アランのこの地への思いは次々と形になっていて、プロヴァンスに現在4ヶ所のオーベルジュを開いている。菜園付きオーベルジュ、ビューティ・ファーム、ゴルフやワイナリー体験が出来るオーベルジュ等々、バラエティに富んでいる。イタリアにもアグリツーリズモを展開中との事で、体験出来るのを楽しみにしている。アランが追求する料理の原点はイタリアン・リビエラ地域の料理だし、バターよりオリーブオイルを多用して、重いソースは極力避け、軽やかでヘルシーな美しい料理を作り出し続けている。

日本での展開は紆余曲折あったが、現在は2店舗で頑張っている。銀座の「ベージュ」はルイ・キャーンズでスーシェフを務めていた小嶋景がしっかりとアランの料理を具現しているし、青山にはビストロ「ブノワ」をプロデュースしている。パリ4区の自家「ブノワ」はつい最近100周年を迎えた。そのエスプリが青山で味わえるのが嬉しい。



美食の町々

モナコのすぐお隣の天空の町エズには、天空レストラン「シェブル・ドール」がある。徒歩でしか行くことのできない鷹ノ巣の町のでっぺんにそのレストランはある。地中海を見下ろす絶景を眺めながらの食事は、ここでしか味わえない。

ニースには、独特のニース料理というものが存在する。サラダ・ニソワーズは今や世界中で食されている。ニース市内の「KEISUKE MATSUSHIMA」はコートダジュールで初めてミシュランの星を獲得したオーナーシェフである。日本人らしい繊細で美しい料理。特に朝食がリーズナブルでいい。

ニースの隣町ヴィルフランシュには「ラ・メール・ジェルメーヌ」というこの地最高のブイヤベースとスープ・ド・ボワソン(魚介のスープ)を食べさせる店がある。ここに来れば何も遠くマルセイユまで行く必要はない。ヨットで港の沖に停泊すれば、RIBのテンダーでの送迎があるから、海からの客も多い。この町は、ジャン・コクトーが長期滞在して港に隣接した教会に素晴らしい壁画を描いたことでも有名である。

ブイヤベースでもう一つはずせないのが、カンヌのお隣アンティープ半島にある「バコン」と「ル・ペッションール」だ。海を見下ろす景色が美食に色を添えてくれる。

これらの美食にワインは欠かせない。夏の戸外ならよく冷えたコート・ド・プロヴァンスやパレットのロゼ、レストランでしっかりと味わうならバンドルやベレの赤、ブイヤベースには間違いなくカシスの白。極旨ワインが勢ぞろいしている。

今辿ってきた町々の周辺には当たり前のようにマリナーが点在していて、そこにスターン付けされた豪華なスーパーヨットに目を奪われる。モナコ、ボーリユー・シュル・メール、カンヌ、アンティープ、サントロペ……。食のみならず、これらの街のマリナーに居並ぶスーパーヨットに触れるのもまた格別の美食となる。**P.B.**

Profile

いとうえいいち

事業家。ポート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVAとRIBの熱烈な愛好家。